2022年度　　OIT－MDASH（リテラシー）　自己点検評価　総括表

1.学内からの視点での点検・評価

No	評価項目	評価の観点 評価基準	点検結果/評価結果 内　　容	測定ツール	評価レベル 評価レベル
1	プログラムの履修・修得状況	学生の履修状況の分析が実施できているか。	本プログラムは今年度入学者から開始し、履修者が1年次のみのため、収容定員に対する履修率は当然低くなっている。しかし、入学者数に対する履修率はいずれの学部も100%近く、良好な結果となっている。	履修・成績データ	A
2	学修成果	学修成果を測定する仕組みを整え活用しているか。	シラバスでは授業計画で何を学ぶかを具体的に示し、適切な到達目標を設定している。独自アンケートでは、該当する授業回の理解度を問う設問により、学修成果を把握し、教務委員会（全学・各学部）で評価・改善に活用している。	独自アンケート ［理解度を問う「設問１」］	A
3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学生の理解度を確認しているか。	本教育プログラム受講者全員に対して実施している独自アンケートの該当する授業回の理解度を問う設問により、学生の理解度を把握している。アンケート結果では学部間に多少の差は存在するものの、概ね肯定的な意見が確認された。授業後の小テスト実施や学部学科の学びに応じた独自の資料を作成した学科も見受けられた。その一方でアンケート回収率向上や学問分野の特徴上MDASHに対する関心度が希薄な学生に対するアプローチに課題を残す結果となった。	独自アンケート ［理解度を問う「設問１」］	B
4	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	MDASHに対する重要度を把握しているか。	本教育プログラム受講者全員に対して実施している独自アンケートの該当する授業回の重要度を問う設問により、本教育プログラムを通して学んだことを後輩に伝え、推奨していく期待度を確認している。アンケートでは、OIT-MDASHに関係する授業回の受講前後と比べ、重要性の認識が高まったかについて問い、その結果は学部間に多少の差が見受けられるものの、「かなり高まった」「ある程度高まった」が6～7割を占め、後輩に伝え受講を推奨していくことに期待ができる結果となった。	独自アンケート ［重要度を問う「設問３」］	A
5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況を確認できているか。また、学生に教育プログラムの履修を促す取組みが行われているか。	2022年度入学生に限定した対象科目の履修状況は、評価項目1に記載のとおり良好である。これは本教育プログラムを構成する科目のうち、１年次に配当している科目は、情報科学部では必修、それ以外の学部においても、学修することが特に望ましい科目に位置付け、原則全員が履修する取り扱いとしているためである。また、制度面による仕掛けのみにとどまらず、受講者となる新入生に対し、入学当初の新入生ガイダンスにおいて案内チラシを配付・説明を実施し、MDASHへの認知を高める取組みも合わせて実施した。	履修・成績データ	A
6	数理・データサイエンス・ＡＩを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」の理解の浸透	MDASHに対する興味・関心度を把握しているか。	本教育プログラム受講者全員に対して実施している該当する授業回の受講によりMDASHに対する興味・関心度が高まったかを問う設問により把握している。「かなり高まった」、「ある程度高まった」が6割近くを占める結果となり、概ね良好な結果となった。本教育プログラムを構成する科目群では、一部はアクティブな手法（グループワーク等）を採り入れるなどの工夫がみられるほか、所属学部学科の学びに即した実社会におけるMDASHの活用事例数を増やしていく等によって、既に一定の理解がある学生に対する向上策の検討も計画されており、今後の改善に期待ができる。	独自アンケート ［興味・関心度を問う「設問２」］	B
7	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	授業の「分かりやすさ」の視点に立った学生の反応を把握しているか。	本教育プログラム受講者全員に対して実施している独自アンケートの該当する授業回の授業の分かりやすかったかを問う設問により、学生の反応をダイレクトに収集している。その結果は学部間に多少の差が見受けられるものの、「強くそう思う」「ややそう思う」が6～7割を占める結果となり概ね肯定的な結果となっている。さらに、当該授業に関する改善要望の有無を問う設問も用意し、真摯に向き合う姿勢を示している。否定的な意見では、「よくわからなかった」が大半を占めている。具体例を示すだけでなく、所属学科の学びに関連付けた事例を交えたり、グループワークを活用している授業も見受けられており、それらの成功例も参考に、アンケート結果を学内全体に共有し、プログラム全体の内容・水準向上に向けて取り組んでいく。	独自アンケート ［授業の分かりやすさを問う「設問４」］ ［改善要望の有無・内容を問う「設問５」］	B

2.学外からの視点での点検・評価

No	評価項目	評価基準	内　　容	測定ツール	評価レベル
8	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	就職先等の関係者から意見聴取を行い、社会からのニーズ等を把握できているか。	本学では自己評価・IR委員会の小委員会において外部評価委員も加わり産業界からの視点も含めた教育課程対する検証が図れる仕組みとなっている。本教育プログラムは2022年度から一斉実施しているものの、修了要件に定める科目の大半が初年次開講科目のため、実質的に多数の修了者を輩出する年度は2025年度のため適正な評価が可能となる年度に達していない。しかし、「卒業生アンケート」（卒業後3年目対象）および「企業アンケート」に関連する設問を追加しており、本プログラム修了生を輩出する前段階で可能な限りニーズの把握に努めている。	企業アンケート、卒業生アンケートにMDASHに（データリテラシー）に関する設問を設定。 〇設問内容 データをを読み、分析・解釈し、その知見をデータに基づいて説明することができる。 企業アンケート：新卒採用にあたって重視する項目の選択肢として設定。 卒業生アンケート：入社時と現在の資質・能力の自己評価の一つに設定。	A
9	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	外部者による検証が実施されているか。	本学の教育の質保証にかかる自己点検・評価にあたり、外部評価委員会を設置し年1回定期的に実施しており、本教育プログラムにおいても同委員会に諮り評価や意見を収集している。 2022年度では、各学部の専門教育における既存の授業科目の学びを通じた教育体制や、教務委員会において自己点検・評価を行った内容に対して、MDASHに関する標準的な能力向上への寄与が見込まれ期待できるとの肯定的な意見が得られた。一方、独自アンケートを通じて得られた改善に向けた課題について、順を追って見直していくことが肝要となる等の意見も付された。得られた意見等については教務委員会を通じて全学的に共有を図っていく。	自己評価・IR委員会の小委員会 ［全学教務委員会で実施した本教育プログラムの自己点検結果への評価を問う項目を含める］	A

【評価レベル】
A　評価基準に示している内容について、優れた点があり、十分に行われている。
B　評価基準に示している内容について、概ね行われており、相応である。
C　評価基準に示している内容について、改善の必要がある。